

処理方式について

1. 可燃ごみ処理方式の選定について

(1) 処理対象ごみ

可燃ごみ処理方式の処理対象ごみは以下のとおりである。

- ・可燃ごみ（生ごみを含む）
- ・可燃残渣（破碎可燃残渣、可燃性粗大ごみ）
- ・し尿汚泥
- ・農作物残渣

(2) 処理方式の選定の手順

処理方式の選定手順は以下のとおりである。

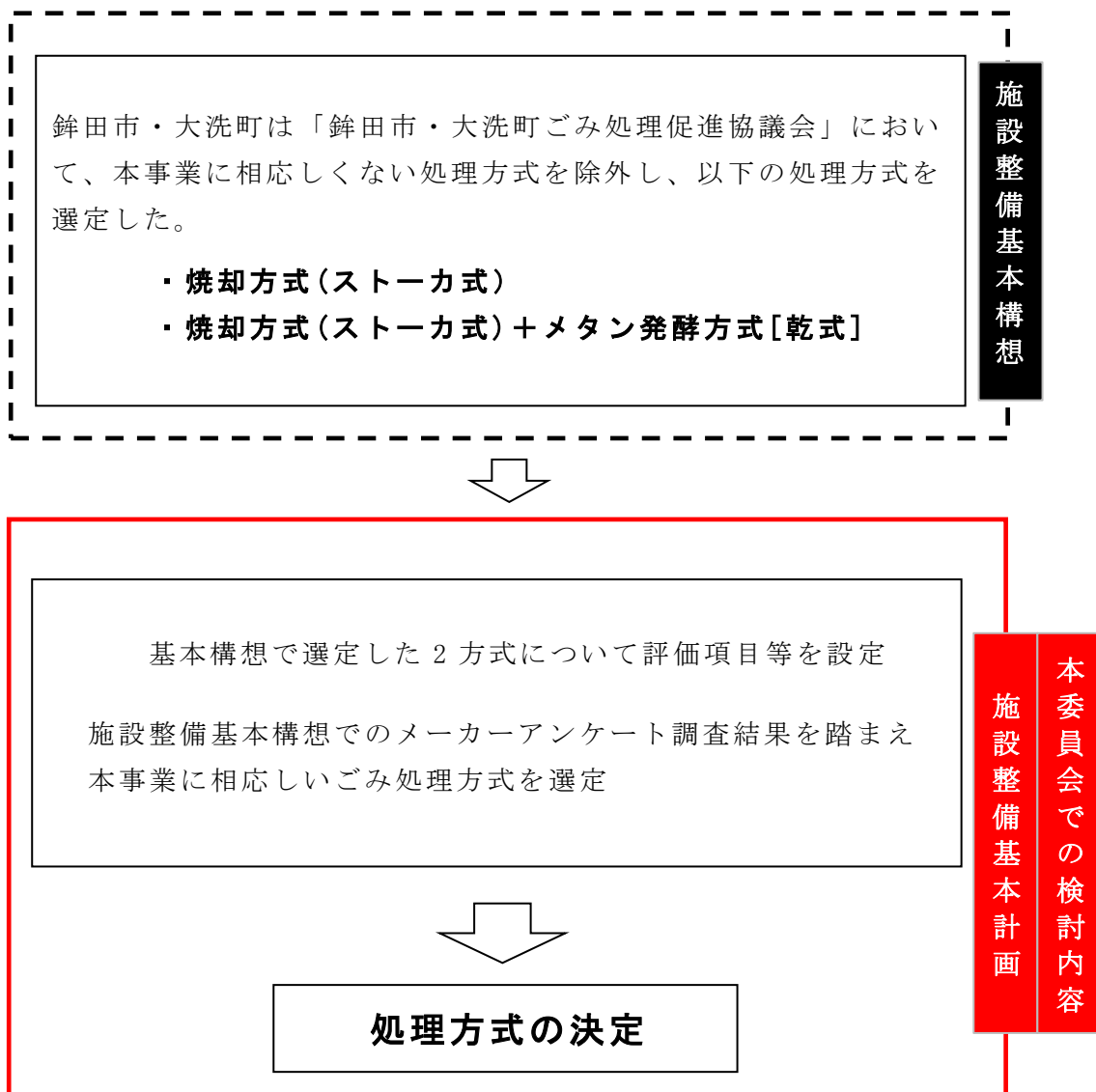


図 1-1 処理方式の選定手順

2. 本委員会での検討

基本構想では、選定した2方式のうち、環境面や経済面等様々な観点から本組合にとって最も望ましい処理方式を検討することとしている。

本委員会では、本組合にとって最も望ましい処理方式を審議し選定する。

3. 処理方式の評価

(1) 評価項目の設定にあたっての考え方

施設整備の基本方針で示す内容に従って、処理方式についての評価項目を設定する。

基本構想で定めた施設整備の基本方針は以下のとおりである。

<基本方針>

基本方針1：循環型のまちづくりに寄与できる施設を目指す

2市町と連携し、廃棄物の資源化を推進するために必要な機能を備えた施設とする。
施設の見学や利用を介してごみ処理・資源循環・温暖化防止に関する意識啓発が図れるよう、住民が集い、学び、楽しむことができる施設とする。

基本方針2：周辺環境における環境負荷の低減が可能となる施設を目指す

法令に基づく公害防止基準値及び周辺自治体における環境保全目標値を踏まえつつ、コストバランスを図りながら効果の高い環境負荷低減策を採用した施設とする。
温室効果ガスの発生抑制を図るため、省エネ、省資源に配慮するとともに、余熱を積極的に活用する施設とする。

基本方針3：安全で安定したごみ処理を推進できる施設を目指す

採用実績が豊富であり、技術の信頼性、安定稼働性に優れ、整備補修、事故時等においてもバックアップが確保しやすい施設とする。
災害廃棄物処理も踏まえた多種類のごみ処理が可能な施設とする。
大規模災害に直面しても、被害を受けにくく、受けた場合にも回復力に優れた施設とする。

基本方針4：経済性に優れた施設を目指す

高度なごみ処理技術を採用しながら効率的で合理的なごみ処理が可能となる経済性に優れた施設を整備する。
長寿命化を踏まえた構造、耐用年数の長い機器設備を採用し、計画的な予防保全を図る上で、資機材の調達、維持管理が容易な施設とする。

(2) 評価項目

第1回委員会での協議結果を踏まえて、以下の評価項目とする。

表 1-1 処理方式の評価項目

項目	小項目
循環型のまちづくりに寄与できる施設を目指す	エネルギー回収
周辺環境における環境負荷の低減が可能となる施設を目指す	二酸化炭素排出
	プラント排水処理(排水量)
	焼却残渣量
安全で安定したごみ処理を推進できる施設を目指す	稼働実績
	ごみ量の変化への対応
	操作・維持管理の容易性
経済性に優れた施設を目指す	施設建設費
	施設維持管理費(売電を含む)